

普遍ニュースレター

Newsletter from Center for General Education, Chiba University

Design : CHIHARA Kazuhiko

2010.02 No.05

“普遍ニュースレター”は、普遍教育センターの活動を中心に
普遍教育・大学教育の動向に関する情報を定期的に紹介していきます（年3回刊行予定）。

●コミュニケーションリテラシー科目、その充実に向けての活動

コミュニケーションリテラシー科目は、普遍教育における重要な柱の一つです。しかし実際にどのようにこの科目を充実させていくかについては、問題がありました。2009年度は、3科目の開講になっております

そこで普遍教育センターでは、昨年春に「見直しWG」を編成し、検討をいたしました。「汎用的なコミュニケーション」についての指導を行わねばならないと考えられてしまっているのではないかと、そのために多くの先生に躊躇するところがあるのではないか、ということが大きな問題だということになりました。

そこで「コミュニケーションリテラシー科目」には三つの方向があると考えるべきだと整理いたしました。

「第1の方向」。<「汎用的」「基礎的」な「コミュニケーションリテラシー科目」>。これは「対人コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、話す・聞く能力、読む・書く能力、などを養う」ものです。以前はこの「第1の方向」しかないかのよう理解されてしまっていたと思われます。

「第2の方向」。<ある程度、限定されたコミュニケーションに関わる「コミュニケーションリテラシー科目」>。「汎用的」とは言いにくいですが、ある程度特定のテーマでのコミュニケーションに関わるもので、多くの学生にとって有用だと思われるテーマを扱う。さまざまな教員が、自分の専門、またはそれに近い領域の立場から、多くの学生に有用と考えられる点について指導する。

「第3の方向」。<「コミュニケーション論」>。「現代の現実における「コミュニケーション」について、広い立場から考える視点を養う」。

このうち「第3の方向」は、いわば理論的なことですが、「第2の方向」は実践的な指導についてのものであります。総合大学である千葉大学には、さまざまな専門・立場の先生がおられますので、さまざまな角度からそれぞれに有意義な指導をしていただけたということが、この「第2の方向」の可能性を示すことで実現しやすくなるかと思われます。

来年度については、現在確認できる範囲では、今年度の3科目に加えて、更に7科目が開講されることになっております。

再来年度以降についても、さらに充実したものにしたいと考えております。多くの学生にいろいろと有意義な指導がなされるよう、今後も努力していきたいと考えております。

企画部長 加藤 隆

シラバス作成ガイドラインの改定について

今回の改定は以下の3点を柱としています。①授業外学習に関して具体的な指示を記述する。言うまでもなく、単位制度の実質化に向け、1単位あたりの学習時間を確保するという主旨です。②具体的な達成目標を明示し、達成目標と関連づけられた厳格な成績評価を行う。達成目標の設定については、一般目標と個別目標に整理し、一般目標ではカリキュラム上の位置づけを考慮しつつ、学習者を主語にした授業目標を記述することになっています。また、一般目標を達成するための個別目標では、できるだけ観点別に記述するよう例も示されています。成績評価は当然のことですが、示された達成目標の達成度を評価することになります。③15回の授業の確保です。期末試験を実施する場合は、15回の授業の外で行います。すなわちその場合は授業日程としては16週になります。今回、大学の方針として、授業日程を16週とすることになりました。大きな意味では大学教育の質保証と関連しますので、千葉大学では率先して15回の授業回数確保に踏み切りました。

今後の予定ですが、2年間の移行期間を経てWeb入力フォームを変更することにしています。具体的には、今回の改定を踏まえ、普遍教育センターでシラバスチェックを実施します。また一方で、学習者の視点に立ったカリキュラム・ポリ

シーを明確にし、その適切な運用に向け、さらに必要な修正を行ったうえで、平成24年度のシラバス作成に間に合うように、最終的なシラバス作成ガイドラインの策定とWeb入力フォームを変更することになっています。

今回の改定に伴い、多少の混乱はあるかと思いますが、ご理解とご協力をお願いいたします。（山内正平）

「普遍教育に関する学生懇談会」を実施しました

2009年10月20日、普遍教育センターは、「第4回 普遍教育に関する学生懇談会：学生が語る普遍教育」を実施しました。この学生懇談会は、1、2年生を中心とする各学部の学生が、普遍教育センター及び各専門教員集団の教員に対して、普遍教育について感じている疑問や意見、要望などを直接伝える機会として、毎年実施しているものです。当日は、45名の学生と21名の教員が出席し、意見交換を行いました。

本年度の学生懇談会では、英語科目、初修外国語科目、情報リテラシー科目、スポーツ・健康科目、教養コア科目、教養展開科目、共通専門基礎科目の科目区分ごとに学生からの意見を求め、それぞれの意見に対して教員から回答及びコメントを示す形式で行いました。具体的には、学習方法についての質問、教員の授業姿勢への意見、受講人数の多い授業の人数制限の希

望、履修登録システムへの意見などが学生から寄せられました。さらに、希望者には、懇談会前と後に紙面による意見提出も行えるようにしたことで、口頭では伝えにくい具体的な指摘も寄せられました。

懇談会についての学生のアンケートでは、懇談会及び普遍教育への高い満足感が示されました。千葉大学及び各教員が普遍教育の充実に真摯に取り組んでいること、普遍教育への理解が深まったとする感想が目立ちました。他方で、普遍教育の具体的な改善についての要望も残りました。

普遍教育センターでは、このような学生からの意見や要望を取り入れ、各専門教員集団と協力しながら、普遍教育のさらなる充実を図っていきます。なお、学生懇談会での意見交換の要旨及び書面での意見、出席学生によるアンケート結果は、普遍教育センターのホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。(白川優治)

普遍教育シンポジウム 「普遍教育のデザインとマネジメント —全学による協働運営の実質化を目指して— 」を開催しました

平成21年10月27日に、学外から3名の講師をお招きして「普遍教育のデザインとマネジメント—全学による協働運営の実質化を目指して—」と題するシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムの目的は、千葉大学全教員の理解と協力のもとに普遍教育を十全に運営するために、普遍教育が抱える課題をいかに克服することができるかを考えることにありました。

基調講演者である寺崎昌男先生（東京大学名誉教授、立教学院本部調査役）からは、広がり（scope）と順次性（sequence）をもった教養教育カリキュラムの設計を中心に講演いただきました。

工藤真由美先生（大阪大学大学教育実践センター長）、笠井純一先生（金沢大学共通教育機構長）からは、それぞれ大阪大学と金沢大学において、どのように全学出動体制を実質化して教養教育の運営にあたっているかについて、具体的にご紹介いただきました。

また、舟島普遍教育センター長からは、普遍教育の実施体制の現状と課題についてお話がありました。

シンポジウムの参加者は48名で、全学の教職員を対象とした企画としては、決して多いとは言えません。しかし、多くの参加者から、他大学の状況を知る好機となった、普遍教育運営についてのセンターの考え方に初めて接することができた、ほかのキャンパスでも同様の企画を望む、などのご意見・ご感想をいただいたほか、全学出動体制の実質化の課題もご指摘いただきました。

普遍教育センターでは、これからのシンポジウムの企画にこうしたご意見をできるだけ反映させていきたいと考えています。(前田早苗)



言語教育センターより

海外語学研修フランス語

言語教育センターの初修外国語部門のフランス語では、普遍教育のフランス語の実施・運営を担う他、毎年フランシュ・コンテ大学応用言語学センターでの語学研修を実施しています。

同センターは、フランスのブザンソン市（TGVでパリから東へ約2時間半）にあり、外国人のためのフランス語教育機関としてだけでなく、フランス語教授法の開発・普及に関しても世界的に有名なセンターです。

実施時期は毎年、8月末から1ヶ月間で、ちょうどブザンソン国際音楽祭の開催期間と重なります。この音楽祭では、小澤征爾を始め、新しいところでは、山田和樹まで7人も日本人優勝者（指揮部門）が輩出され、日本人にはなじみの深いものとなっています。また、同市はスイス国境に近く、非常に風光明媚なところで、とりわけ、夏は過ごしやすく、市民のみならずも非常に親切で、毎年学生たちをととても暖かく迎え入れてくれます。

毎年、参加者は、週5日のフランス語の授業だけではなく、この音楽祭を始め大小さまざまな文化行事をとおして、世界各国の人々と知り合い、積極的に交流することで、フランス語のブラッシュ・アップに結びつけています。

過去の参加者の多くは、この参加体験をきっかけに、フランス語の学習を継続させ、深めていってくれています。なかには、フランスの大学院への留学や、国際活動への参加など、フランス語力を生かした状況に、積極的に飛びこんでいく学生も出てきたところです。

今後も、一人でも多くの学生が、フランス語研修から何かをえてくれることを願い、研修内容をさらに工夫していく予定です。
(言語教育センター 高橋信良)

☞ 普遍ニュースレター No.5 2010年2月発行 ☞

発行・編集：千葉大学 普遍教育センター

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 Tel：043-290-3609（普遍教育課）

E-mail: fuhen-info@office.chiba-u.jp URL: http://fkc.chiba-u.jp/